

松浪中学校の生徒さんによる発表

浜竹1丁目 Aグループ

テーマ:消火器がある場所
地震が起きたら危険な場所
防災倉庫、防火水槽

- ①消火器:火災の際に、初期消火に使用される。本体に書いてある使用方法を確認しておくともしもの時に便利。
- ②倒れそうな電信柱:家の方に傾いていて危険。早くまっすぐに立て直して欲しい。
- ③防災倉庫:中には、災害時に役立つものが沢山入っている。特にポータブルトイレなど、地震が起きたときには役立つと思う。
- ④壊れかけたブロック塀:地震が起きたときに、崩れる可能性があり、危険だと思う。



浜竹1丁目 Bグループ

テーマ:災害時の対策

- ①安全な場所:広場や駐車場は、周りに何も無いので安全。広いので沢山の人が避難することもできる。
- ②消火器:火災が起きたら近くにある消火器を使って下さい。あらかじめ場所を確認しておくといいと思う。浜竹1丁目のものでも、気にせず使って下さい。
- ③防火水槽:防火水槽には、道路の下にあるものと、道路の近くにあるものがあります。防火水槽の近くに、看板があります。
- ④防災行政用無線:設置直後に地震が発生し、地震を知らせた。しかし、浜竹1丁目には1機しかなく、場所によっては、聞こえない場所もある。



浜竹1丁目 Cグループ

テーマ:浜竹1丁目の防災

- ①空家:家主が亡くなっているところでは、誰も手入れをしていないため、植物だらけになっている。
- ②貯水槽:防災倉庫やマンションの横、公園の近くなど、沢山の人がいる場所や避難場所にある。貯水槽の上の地面は白っぽいコンクリートで、人目でわかるようになっている。
- ③消火器:火災が起きたときに、多少は火を消すことができる。場所や使い方を覚えておくと、もしものときに便利。
- ④防災倉庫:浜竹1丁目に防災倉庫は2つしかなく、何百人もの人が使うのに、足りるか不安だが、みんなが協力し合えば、平気だと思う。



浜竹2丁目

テーマ:災害時に安全な場所と危険な場所

- ①行止まり:あせって行止まりに避難してしまうと危ないので、場所を確認しておいた方がよい。
- ②消火栓:一定の間隔で設置されている。火事をいち早く止めるためには最も必要。
- ③井戸:電動式と手動式があるが、停電になったら、電動式は使えなくなる。飲料水として使用するときは、沸騰させてから、飲まないで危険。
- ④一時避難所:近くに病院があるので安心。周りには建物も少ないので、安全。ここに全員が集まってから、近くの学校に避難する。
- ⑤感想:浜竹2丁目には、あまり大人が少ないので、中学生が頑張らないといけない。



防災都市づくり NEWS

4

VOL.

平成22年2月28日[日] 第4回防災都市づくりワークショップ開催

浜竹一・二丁目第4回防災都市づくりワークショップを開催

第4回ワークショップでは、「道路閉塞・火災を人・まちの視点から考える」というテーマのもと、ワークショップを通して、地域の防災都市づくりについて考えました。第3回ワークショップに続いて、第4回ワークショップでも、中学生や浜竹一・二丁目以外の方々に参加いただき、幅広い議論が行われました。また、松浪中学校の生徒さんには、地域について研究した成果を発表していただきました。

ワークショップの内容

第2回、3回目のワークショップ結果、地域点検結果等を踏まえると、以下の4つの点に意見が集約できました。そこで、今回のワークショップでは、グループごとに4つの中からテーマを選択し、アクションプログラム、その対策を実際に進めていくためにはどうすればよいか、どんな仕組みをつくれればよいか、話し合いました。また、グループ討議を進めるにあたり加藤先生からヒントをいただきました。

～話し合いヒント！！～

教科書的に普通に考えていても、良いアイデアは浮かばない。発想の転換が必要。

①固定化した常識をはずす

常識的な考え、実現可能性はおいておく。「ブロック塀は何でつくるの？」といったそもそもの素朴な疑問を問いかけてみる。対策のヒントがあるかもしれない。

②「ながら」防災 防災風味

別の目的とのセットで防災を考える。地域のお祭りでの屋台は、地域の炊き出し訓練になるかも。

③地域の底力

行政の力の限界ははっきりしている。地域の底力をどのように生み出すのか。

④小さいことから上げていく

完璧にやろうとするとしんどいので、できることからこつこつとやろう。

<第4回WSの内容>

日時:2月28日[日] 10:00-12:30

場所:松浪自治会館

参加人数:23名

★松浪中学校の生徒さんによる発表

★ワークショップ

・グループ討議

～話し合いのテーマ～

- ① 一時避難場所、避難ルートの確保のためには?
- ② 危険なブロック塀を減らす・無くすためには?
- ③ 地域の火災対策は?
- ④ 地域住民の意識啓発のためには?



